

未来世代のための平和賞

Making the World Better for Future Generations



鮮鶴平和賞

鮮鶴平和賞の設立者である文鮮明・韓鶴子総裁は、「神の下、人類は一つの家族」という平和ビジョンを中心に据え、人類の生活と内面を平和的に再構築する価値を提示してきました。特に宗教を中心としながら、政治・経済・教育・メディア・芸術・家庭・女性・青年に至るまで、あらゆる分野で平和な生き方を提示し、人類共同体の平和な未来に備えてきました。

設立者



文鮮明・韓鶴子総裁

宗教を超えて

「宗教とは、平和な理想世界を求めて流れる大きな川のようなものです。川は広大な平和の世界にたどり着くまで長く流れ、数多くの支流と出会います。本流に合わさった支流は、その時から支流ではなく大きな川そのものとなるのです。」

和合 設立者は宗教間の葛藤が人類を脅かす重大な問題であると指摘し、1968年の「世界宗教者協議会」創設を皮切りに、超教派・超宗教の組織を結成して宗教和合運動を展開してきた。設立者は特に、国連が真の平和への道を見出すためには霊的な眼識を持つ超宗教指導者の知恵を求めるべきだと主張し、国連を超宗教の代表からなる「上院」と各国の政治外交代表からなる「下院」の二院制へと改革する国連刷新案を提案した。

理解 設立者は1991年、著名な宗教学者・神学者を集め、『世界経典』（全1,078ページ、全2巻、1991年英語版、1994年韓国語・日本語版）を出版した。『世界経典』には、キリスト教、イスラム教、仏教、ヒンドゥー教をはじめとする世界の主要宗教経典の語彙を比較研究した成果が収められており、宗教経典の73%が宇宙の根本を探求し、創造主の意志を悟って平和世界を実現しようとする共通のメッセージを含んでいることを明らかにした。

国境を超えて

「数千年に及ぶ人類の歴史は、世界を分裂させ続けてきた歴史でした。宗教が変わり、権力が変わるたびに国境が引かれ、戦争が起きました。しかし、神が創造された世界に、本来国境などあり得ないのです。」

連結 設立者は、人類の和合を妨げるあらゆる境界は人間の墮落に起因する悪の結果であると捉え、全世界を一つに結ぶ人類史上最大の国家・文明横断プロジェクト「ピースロード」を構想した。世界をつなぐ国際平和高速道路（1981年）や、アラスカとロシアを結ぶ全長85kmのベーリング海峡海底トンネル（2005年）を提案し、韓国と日本を結ぶ全長209～231kmの海底トンネル建設に向けた試掘も開始した。

超イデオロギー 設立者は神と宗教を否定する弁証法的唯物論に徹底して反対し、冷戦対立が激しかった1968年に「国際勝共連合」を創設して国際的な反共運動を展開した。1990年には共産主義の指導者であったソ連共産党書記長ゴルバチョフ氏と会談して共産主義体制の解体を導き、1991年には北朝鮮の金日成主席との平和会談を通じて朝鮮半島の平和交流拡大に多大な貢献をした。

知恵 設立者は早くから、貧困、気候変動、不平等など一国家だけでは対応が難しいグローバルな課題を解決するための民間レベルの運動を展開してきた。特に天宙平和連合（UPF、国連経済社会理事会の総合協議資格団体、185か国に120万人の平和大使ネットワークを構築）を中心に国際リーダーシップ会議を継続的に開催するなど、世界のグローバルな難題解決に貢献している。



人類一家族の共同体へ

「人類はみな家族です。真の愛で結ばれたひとつの家族です。人類は一本の木です。あなたがたの家庭には、さまざまな家族が共に暮らしています。そこには赤ちゃんもいれば、少年も、青年も、壮年も、老年もいます。」

家庭 設立者は、男女が神を中心に一つとなり、生命を創造する結婚こそ、神の創造事業を受け継ぐ聖なる道であると考え、これを「祝福」と名付けた。祝福結婚式は1960年に韓国で举行されたのを皮切りに、60年間で全世界4億組以上が参加してきた。

女性 設立者は、これからの世界は女性の母性的な愛が導いていくという先見をもって、1992年に世界平和女性連合（国連経済社会理事会の総合協議資格団体、119か国にネットワークを構築）を設立し、女性の地位向上、グローバルな女性平和ネットワーク、人道支援プロジェクトを展開している。

文化 設立者は、人種と国境を超えた全人類和合の場を作るため、文化・芸術・スポーツ交流に情熱を注いだ。韓国屈指のバレエ団であるユニバーサルバレエ団や、韓国の伝統芸術を上演する子ども芸術団リトルエンジェルス、世界中のスポーツ選手や青年たちが競技を行う世界文化体育大典、各大陸の代表プロサッカーチームによるピースカップ国際サッカー大会などを運営し、国境を超えた人類共同体の和合に貢献した。

授賞概要

授賞周期	隔年授賞
授賞分野	平和
授賞品目	賞金、メダル及び盾

推薦及び審査の過程

候補者の資格要件

- ・鮮鶴平和賞の平和の旗印を具現化した活動に顕著な貢献をした個人または団体
- ・複数の国家、人種、宗教、理念にわたり、平和の理想に肯定的な影響を与えた個人または団体

推薦

鮮鶴平和賞の推薦委員は世界各国の1,000余名で構成されており、候補者の推薦は次に該当する推薦人によって行われます。

- 個人

国際的な賞の受賞者、各国の著名人
- 団体

国際NGO団体及び学術団体、国際的な賞を受賞した団体

審査

委員会では、数回にわたる小審査会議、全体審査会議を通じて、推薦された各候補者の活動内容及び功績事項を検討し、評価指標による客観的な審査を行います。

受賞者の決定及び発表

委員会は最終審査会議で絞り込まれた候補者の中から最終受賞者を決定し、国際記者会見を通じて正式に発表します。

鮮鶴平和賞の平和ビジョンと旗印

平和ビジョン

神の下、人類は一つの家族

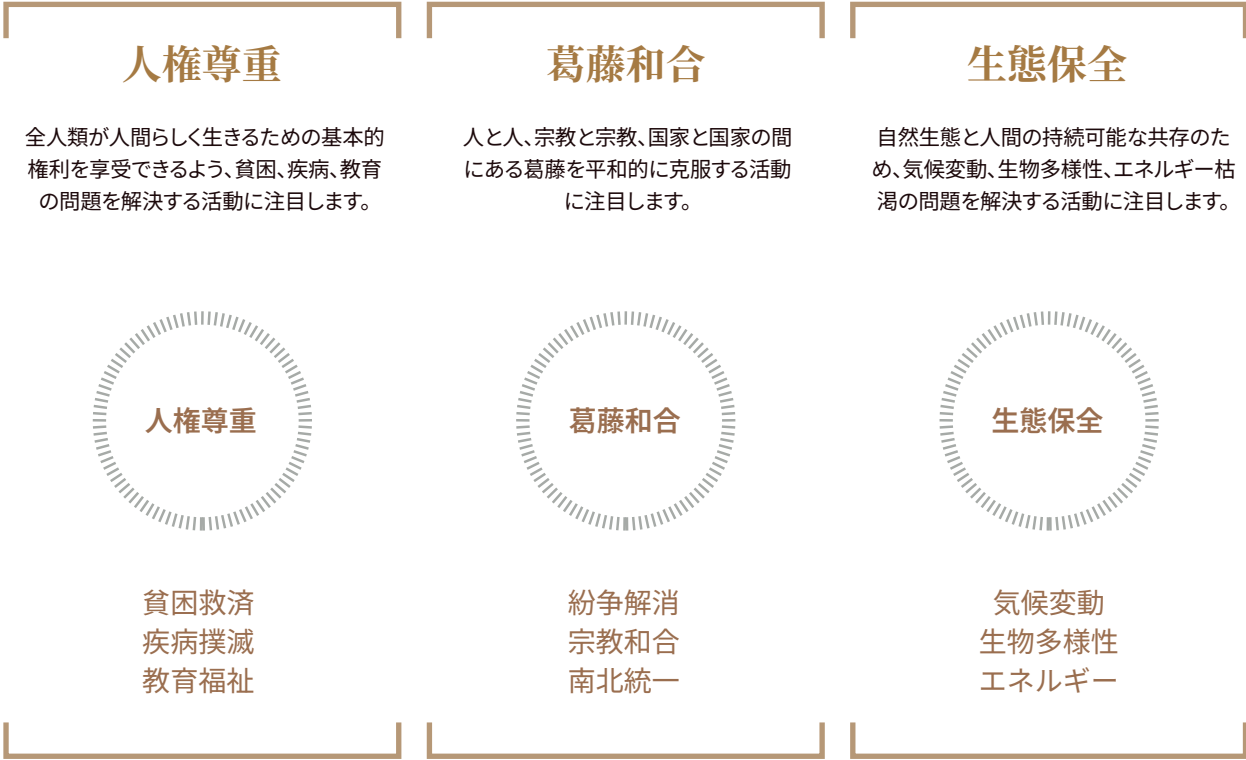
未来世代の人類共同体の平和を志向する鮮鶴平和賞は、地球上に存在する数多くの苦痛、葛藤、破壊的な現象を癒やし、平和のための複合的な未来ビジョンを構築するために制定されました。

21世紀の持続可能な平和は、世界的な相互関連性を念頭に置きつつ、具体的な時空間の条件下で生じる非平和的な状況を癒やすことによって実現できます。これを踏まえ、鮮鶴平和賞は「人類一家族」の平和思想を基盤に、競争と葛藤ではなく、連帯と共存、対話に基づく未来の平和ビジョンを志向します。

鮮鶴平和賞は、人間への尊敬と愛を呼び覚まし、平和を脅かすあらゆる葛藤を愛によって和合させ、人間と生態系が美しく共存する世界を作り上げることに顕著な貢献をした個人及び団体に授与されます。

平和の旗印

鮮鶴平和賞は、次のような平和の旗印を掲げています。





共同委員長

トーマス・ウォルシュ

Thomas G. Walsh

出生

1949年11月8日 米国ケンタッキー州レイビル

学歴

バンダービルト大学大学院宗教学修士及び哲学博士

現職及び経歴

- ・ 現 信仰基盤組織連合共同議長
- ・ 現 HJ国際平和大学院総長
- ・ 現 国際平和リーダーシップジャーナル執行編集長
- ・ 前 天宙平和連合 (UPF) 世界会長
- ・ 前 世界平和道路財団理事長



前委員長(2014-2020)

洪一植

Il Sik Hong

- ・ 前 (社) 世界孝文化本部総裁
- ・ 前 韓国人文社会研究院理事長
- ・ 前 (財) 麗水・順天殉国先烈記念財団理事長
- ・ 前 高麗大学校総長
- ・ 前 学校法人養正義塾理事長
- ・ 前 高麗大学校民族文化研究所所長

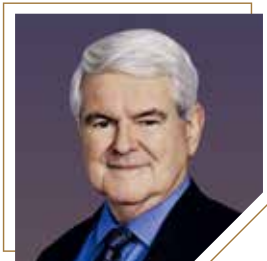


前委員長(2021-2025)

ジョゼ・マヌエル・バルローゾ

José Manuel Barroso

- ・ 前 Gavi ワクチンアライアンス理事会議長
- ・ 前 欧州委員会委員長
- ・ 前 ポルトガル首相
- ・ 前 ポルトガル国会外交委員長
- ・ 前 ポルトガル外務大臣



ニュート・ギングリッチ Newt Gingrich

- ・ 前 米国下院議長
- ・ 前 下院共和党副院内総務
- ・ 前 米国ジョージア州下院議員



ダン・バートン Dan Burton

- ・ 現 世界平和国会議員連合 (IAPP) 共同議長
- ・ 前 下院監督委員会委員長
- ・ 前 共和党研究委員会委員長
- ・ 前 米国インディアナ州下院議員



トーマス・P・マクデビット Thomas P. McDevitt

- ・ 現 ワシントンタイムズ会長
- ・ 現 HJ Magnolia US ホールディングス会長
- ・ 現 世界平和メディア人連合 (IMAP)
- ・ 現 世界平和経済人連合 (IAED) グローバルコーディネーター



文研雅 Yeon Ah Moon

- ・ 現 鮮鶴学園理事長
- ・ 現 孝情世界平和財団理事長
- ・ 前 世界平和女性連合会長
- ・ 前 ユニバーサル文化財団理事

第1回 鮮鶴平和賞 授賞式



日時

2015年8月28日午前10時

場所

大韓民国ソウル、グランドインターコンチネンタルホテル

第1回 鮮鶴平和賞 選定経過

第1回授賞方針

第1回鮮鶴平和賞の授賞テーマは「人類の未来の平和は海にある」です。鮮鶴平和賞は、文鮮明総裁と韓鶴子総裁の「人類大家族」という平和ビジョンを称えるために制定された賞であり、お二方は人類共同体の平和のために生涯を捧げられました。特に故・文鮮明総裁は、早くも1960年代から地球環境問題と食糧問題を未来の人類共同体の平和を脅かす課題として予見し、その強力な解決策として「海」を提示しました。これを受け、本委員会は設立者お二方の慧眼を基に、第1回鮮鶴平和賞の授賞テーマを「海」と決めました。

候補者受付

鮮鶴平和賞委員会は授賞テーマを基に、世界各国の著名人約1,000名で構成される推薦委員から候補者の推薦を受け付けました。その結果、66か国182名の候補者が寄せられました。

候補者審査

その後、鮮鶴平和賞委員会は推薦された候補者に対する厳正な審査を行うため、2015年3月まで候補者の適格性検証の過程を経ました。基本的に徹底した資料調査と当該分野専門家への諮問を行い、最終候補者の業績検証のために現地調査も実施しました。

受賞者の選定及び発表

数回の審査会議を経て、第1回鮮鶴平和賞の受賞者としてキリバスのアノテ・トン前大統領、及びインドのモダドッグ・グプタ博士を選定しました。その後2015年6月8日、米国ワシントンD.C.のナショナル・プレス・クラブにて第1回受賞者選定発表記者会見を行い、世界に正式発表しました。

アノテ・トン

キリバス共和国前大統領
1952年6月11日 キリバス・ライン諸島生まれ
英国ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス
経済学修士

主な経歴

1978～1980年	南太平洋経済協力機構(SPEC) プロジェクト責任者
1983～1992年	環礁研究財団(USP)所長
1994～1996年	キリバス共和国天然資源開発省大臣
1996～2003年	キリバス共和国国会議員
2003～2007年	キリバス共和国大統領に当選
2007～2011年	キリバス共和国大統領再選
2012～2016年	キリバス共和国大統領三選



気候危機の最前線で平和を創る グローバルリーダー

気候危機の深刻さを国際社会で公論化

アノテ・トン（Anote Tong）前キリバス大統領は、世界が直面する甚大な気候危機の深刻さを国際社会に発信し、地球規模の解決策の模索を主導している。国連をはじめとする主要国際機関において、海面上昇により平均海面より低い高度にある環太平洋の小島嶼国が直面する気候危機を積極的に訴え、国際社会がその解決に向けて行動できるよう包括的な協議体を構築する上で中核的な役割を果たしている。

キリバス共和国は南太平洋に位置する小さな島国で、33の珊瑚礁の島々から成る。面積811平方キロメートル、人口わずか10万3,000人の小国であり、平均海拔が低いため、海面上昇により2050年には国土全体が水没する危機に直面している。

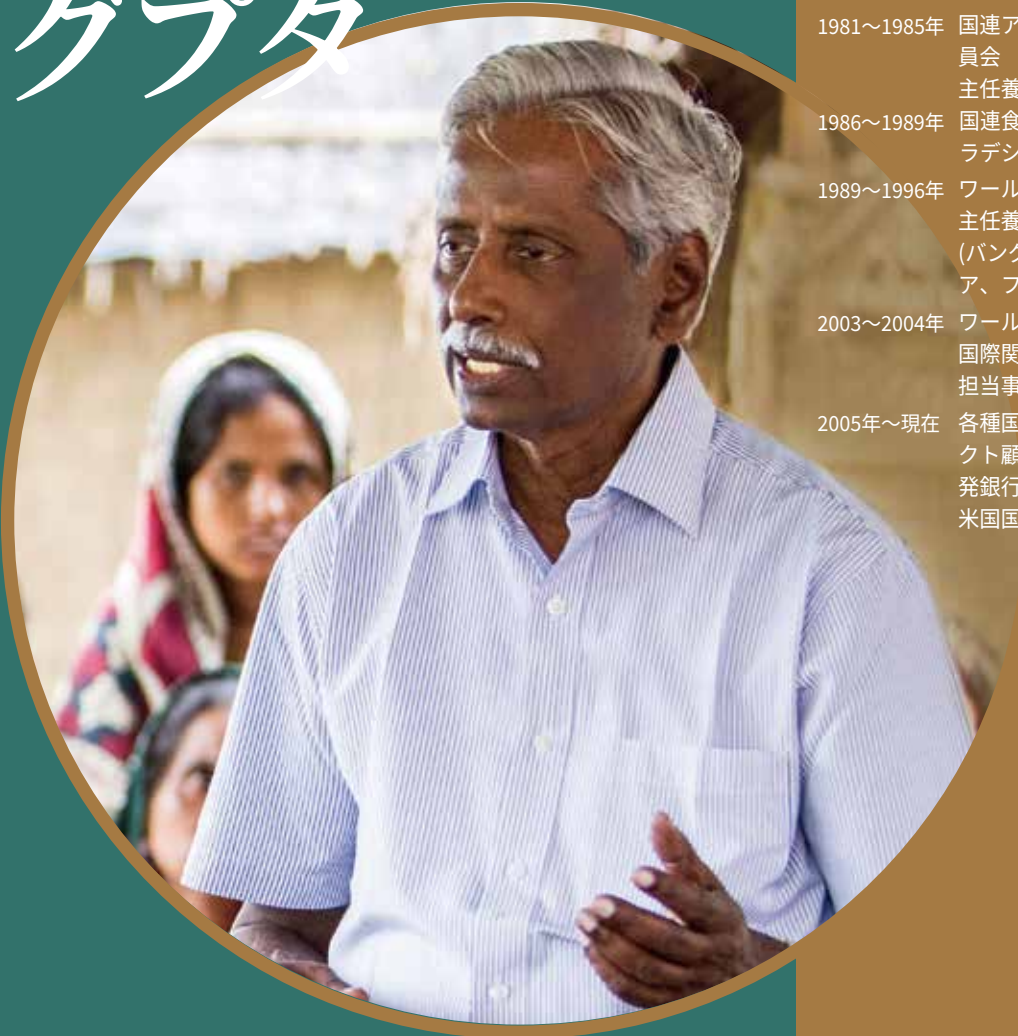
犠牲を払いながら海洋生態系の保護に率先垂範

アノテ・トン前大統領は、環太平洋地域が未来世代のための資源の宝庫として保護されるよう、海洋保護活動にも積極的に取り組んでいる。2006年には、地球上で最も完全な形で保存されている珊瑚水域であるフェニックス諸島を保護するため、国際保全協会（CI）が「フェニックス諸島保護区（PIPA）」を設定・発表した。フェニックス諸島は2010年にユネスコによって世界最大規模の世界遺産に登録されるほど、人類にとって貴重な宝である。さらに同氏は、太平洋23か国の島嶼国による協力体「太平洋海洋景観管理協議会」の設立を主導し、太平洋の環境保護に向けた国際的な取り組みを進めている。太平洋海洋景観の面積は世界の海洋表面の10%に及ぶ広大な面積（約4,000万平方キロメートル）で、人類と地球の美しい共存のための重要な土台となっている。さらに自国の沿岸を漁業と採掘を全面禁止する「完全保護区」に指定し、国家的な犠牲を払いながら海洋生態系保護に率先垂範している。遠洋漁船からの入漁料収入に大きく依存するキリバスにとって、これは国家的利益を手放す道徳的決断である。

気候難民の尊厳ある人権確保に尽力

アノテ・トン前大統領は、気候変動によって生活の場を追われる自国民の人権擁護に全力を注ぎ、気候難民の人権保護に対する国際社会の認識を喚起することに大きく貢献した。同氏は、30年以内に水没の危機に直面する自国民が尊厳を失うことなく移住できるよう、体系的な移住政策を策定している。フィジーの土地約2,428ヘクタールを購入するなど移住先の確保に尽力するとともに、自国民が不安定な立場の「難民」としてではなく、競争力を備えた移民として処遇されるよう教育する「尊厳ある移住（Migration With Dignity）」プログラムを実施している。これは看護師、船員、園芸専門家など多様な職業訓練と語学教育プログラムであり、生活の場を失うという絶望的な状況の中でも人々の尊厳ある人権を守らなければならないという、トン前大統領の熱い人類愛が反映されたものである。

モダドゥグ・ ヴィジェイ・ グプタ



インド 養殖科学者

1939年8月17日 インド生まれ
インド・カルカッタ大学 生物学博士

主な経歴

- 1971～1977年 インド農業研究評議会(ICAR) 科学者
- 1977～1981年 国連アジア太平洋経済社会委員会 ラオス・メコン事務局魚類養殖専門家
- 1981～1985年 国連アジア太平洋経済社会委員会 タイ・メコン 事務局 主任養殖科学者
- 1986～1989年 国連食糧農業機関(FAO)バングラデシュ魚類養殖専門家
- 1989～1996年 ワールドフィッシュセンター 主任養殖専門家 (バングラデシュ、マレーシア、フィリピン)
- 2003～2004年 ワールドフィッシュセンター 国際関係・パートナーシップ 担当事務局長補
- 2005年～現在 各種国際機関の養殖プロジェクト顧問 (世界銀行、アジア開発銀行、国連開発計画、米国国際開発庁など)

未来の食糧危機への対策― ブルー革命の先駆者

革新的な養殖技術の開発で未来の食糧危機への解決策を提示

生物学博士であるモダドゥグ・グプタ (Modadugu V. Gupta) は、人類の未来の食糧問題を解く鍵が海にあると考え、魚種改良によって魚の生産量を画期的に増大させた「ブルー革命」の設計者である。グプタ博士は、比較的安価に動物性タンパク質を供給できる魚が貧困層の栄養状態改善に決定的な役割を果たすと判断し、養殖技術を大きく発展させて未来の食糧危機への解決策を提示した。特に世界最貧国の一つであるバングラデシュの飢餓問題を解決するため、1980年代末から濁った浅瀬でも生存力の強い「ティラピア」「シルバーバルブ」などの魚種を改良した。その結果、研究初期の1986年にはわずか17万トンだったバングラデシュの魚類生産量は、2005年には85万トンへと5倍に急増し、革命を起こした。2000年からはアジアを越え、世界の飢餓の最前線であるアフリカ地域に適した養殖技術の開発にも力を注いでいる。

貧しい人々に魚の獲り方を教え、自立の奇跡を起こす

グプタ博士は、貧しく飢えた人々に魚を与えるのではなく、魚の獲り方を教えることで自立・自活の奇跡を起こした、東南アジアの貧困層にとっての「聖者」である。グプタ博士は東南アジアの貧困層における飢餓・栄養失調の問題を解決するため、貧しい人々と共に生活しながら献身的に養殖技術を普及させた。土地を持たない貧しい農民5～10人で小さなグループを作って動機づけを行い、養殖技術を指導するとともに、養殖に必要な初期費用と養殖場を無償で支援し、積極的に自立の基盤を築いた。その結果、貧困の悪循環に陥っていた極貧層の栄養状態は大きく改善し、より良い暮らしへの希望をもたらした。

アジア女性の社会的地位・人権を大きく向上

グプタ博士は、社会的地位の低い東南アジアの女性たちに積極的に養殖技術を普及させ、アジアの貧困家庭の世帯収入を増やしただけでなく、女性の社会的地位と人権を大きく向上させた。女性の社会参加に否定的であった各地域の宗教指導者と直接会って説得する一方、貧しい農家の女性たちに自活への動機づけを行い、養殖に必要な技術を教育した。また、地域団体と協力し、女性たちが経済活動に必要な最低限の資金と土地の支援を受けられるよう支援した。こうしたグプタ博士の努力により、現在バングラデシュの魚類養殖業従事者の60%を女性が占めるほどの大きな成功を収め、女性の人権及び社会的地位の向上に肯定的な変化をもたらした。

第2回 鮮鶴平和賞 授賞式



日時
2017年2月3日

場所
大韓民国ソウル、ロッテホテルワールド クリスタルボールルーム

第2回 鮮鶴平和賞 選定経過

第2回授賞方針

第2回鮮鶴平和賞は「グローバルな難民危機」に注目しました。現在、人類は第二次世界大戦以来最も深刻な難民問題に直面しており、国際社会は人類共通の利益のため、国家の枠を超えた取り組みで難民危機の解決にあたる必要があります。設立者は特に、世界平和の解決策として宗教・国家・人種を超えた人類愛を強調し、早くから「国境撤廃」運動を提唱してきました。これを受け、本委員会は世界的な危機と設立者の平和ビジョンを踏まえ、「グローバルな難民危機」を第2回の授賞方針として決めました。

候補者受付

鮮鶴平和賞委員会は、世界各国の著名人約1,000名で構成される推薦委員から、2016年4月から9月にかけて候補者の推薦を受け付けました。その結果、76か国225件の候補者が寄せられました。

候補者審査

鮮鶴平和賞委員会は数回にわたる審査会議を通じて、推薦された各候補者の活動内容及び功績事項を検討し、評価指標による客観的な審査過程を経ました。

受賞者の選定及び発表

鮮鶴平和賞委員会は最終審査会議で絞り込まれた候補者の中から、イタリアの外科医ジノ・ストラータ博士、及びアフガニスタンの女性教育家サキナ・ヤクービ博士を、第2回鮮鶴平和賞の最終受賞者として選定しました。その後2016年11月29日、米国ワシントンD.C.にて第2回受賞者選定発表記者会見を行い、世界に正式発表しました。

ジノ・ストラダ



イタリア人医師

1948年4月21日 イタリア・ミラノ生まれ
イタリア・ミラノ大学医学部卒業

主な経歴

- 1978～1984年 イタリア・ミラノ大学救急外科部門外科医
- 1981年 南アフリカ・ケープタウン、グルート・シュア病院客員外科医
- 1989～1992年 赤十字国際委員会(ICRC)病院外科医(パキスタン、エチオピア、タイ、アフガニスタン)
- 1993年 ソマリア・ベルベラ病院主任外科医
- 1994年 ボスニア・ヘルツェゴビナ、コソボ病院外科医
- 1994～2007年 エマージェンシー(Emergency)病院主任外科医(ルワンダ、カンボジア、アフガニスタン、エリトリア)
- 2007～2021年 スーダン・サラーム心臓外科センター外科医

難民と戦争犠牲者の「治療を受ける権利」を守った英雄

アフリカ・中東紛争の最前線で緊急医療救援活動を展開

ジノ・ストラダ（Gino Strada）はイタリア人外科医として28年間、世界各地の紛争地域に身を投じ、命の危機に瀕する難民、戦争犠牲者、貧困層に緊急医療救援を行ってきたヒューマニストである。1989年に赤十字国際委員会（ICRC）の戦地医師として活動を始め、1994年には戦争犠牲者と極貧層に質の高い無料医療サービスを提供することを目標に、国際緊急医療団体「エマージェンシー（Emergency）」を設立した。エマージェンシーは世界で最も危険で医療体制が脆弱な17か国において、60を超える病院、外科センター、リハビリセンター、小児科診療所、応急処置所、保健センター、母子センター及び心臓外科センターを運営し、これまでに800万人以上の命を救ってきた。

「治療を受ける権利」の保障で尊厳ある人権擁護の先頭に立つ

ジノ・ストラダは、基本的かつ譲渡不可能な普遍的人権である「治療を受ける権利」のため、力なく貧しい人々に差別なく質の高い治療を提供し、平和、連帯、人権の価値を積極的に発信してきた。こうした取り組みの結果、2008年には世界最貧国に数えられるアフリカ11か国（中央アフリカ共和国、チャド、コンゴ民主共和国、ジブチ、エジプト、エリトリア、エチオピア、ソマリア、スーダン、南スーダン、ウガンダ）の政府が、「国民の治療を受ける権利を認め、無料の保健医療サービス提供に努める」とするエマージェンシーの「医療に基づく人権宣言」に署名した。

「反戦」及び「対人地雷生産禁止」キャンペーンで平和の文化を主導

ジノ・ストラダは、「戦争はいかなる理由によっても正当化され得ない強制と暴力の根源であり、人間の尊厳を踏みにじる残虐な行為として地球上から消えるべきだ」という揺るぎない道徳的・政治的立場から、反戦運動を展開している。数十年にわたり紛争地で地雷による民間人の被害と人々の不幸を目の当たりにしてきたジノ・ストラダは、1997年、イタリアにおける対人地雷の生産・使用禁止を求めるキャンペーンに情熱を注ぎ、1998年にこれを実現させた。2001年にはアフガニスタン戦争へのイタリアの介入に反対するキャンペーンを、2003年にはイラク戦争へのイタリアの介入に反対するキャンペーンを大々的に展開し、国際社会に反戦意識を呼び起こした。

サキナ・ヤクービ



アフガニスタンの教育家
1950年 アフガニスタン・ヘラート生まれ
米国ロマリダ大学 公衆衛生学修士

主な経歴
1982年～現在 「国際希望創造(CHI: Creating Hope International)」団体設立(米国ミシガン州)
1982～1991年 保健コンサルタント
1989～1992年 デトロイト大学教員(米国ミシガン州)
1995年～現在 アフガン学習研究所(AIL)設立・代表
1992～1995年 国際救援委員会(IRC)所属、パキスタン
難民キャンプで女性教育及び教師教育を担当
2007年～現在 アフガニスタン・カブール及びヘラートに私立学校4校設立(幼稚園～12年生)、私立病院・診療所設立、ラジオ局 Meraj 94.1FM設立

難民再定住の根本的解決策を提示した
「難民教育の母」

アフガニスタンの「難民教育」に生涯を捧げる

「アフガニスタン教育の母」と呼ばれるサキナ・ヤクービ（Sakena Yacoobi）は、戦争と占領という過酷な状況下でも、社会再建の鍵は「教育」にあるという信念のもと、四半世紀にわたり、先駆的かつ献身的に難民教育に取り組んできた。

サキナ・ヤクービは、数十年に及ぶ戦争で教育及び保健システムが完全に崩壊したアフガン難民キャンプで教師を養成し、男女別の学校設立に着手した。1995年には体系的な難民教育のためにアフガン学習研究所（AIL）を設立し、女性と子ども1,300万人に教育及び職業訓練を提供。タリバン政権による女子就学禁止政策にもかかわらず、命がけて80以上の秘密学校を運営し、3,000人の少女たちを教育した。

「全人的アプローチ」で難民再定住の解決策を提示

サキナ・ヤクービが設立した「アフガン学習研究所（AIL）」は、民間レベルで4つの私立学校、病院、ラジオ局を運営し、「全人的アプローチ」を実践している。1996年以降、200万人を超える女性と子どもに保健教育を提供し、これにより難民キャンプにおける乳児死亡率及び妊産婦死亡率を大幅に低下させた。また「愛と赦し」のワークショップを継続的に提供することで、社会的疎外感と怒りに包まれていた難民たちを、地域社会を革新する前向きなリーダーへと変えてきた。1日100万人に届くラジオ放送を通じ、社会動向、健康、家庭の成功モデル、人権、文学、音楽など生活全般を取り上げ、平和で豊かな暮らしを求める難民たちの願いに応えている。

イスラム女性の人権・地位向上に貢献

サキナ・ヤクービは「少女を教育することは、次世代を教育することだ」という信念のもと、イスラム女性の教育に尽力し、女性の人権を大きく向上させた。女性教育に批判的なイスラム文化と戦争の傷跡により、アフガニスタンでは15歳以上の女性のうちわずか12.6%しか読み書きができず、世界最低水準の識字率を記録している。サキナ・ヤクービはこの深刻な状況を打開するため、地域社会の男性指導者たちを粘り強く説得し、女性教育に対する偏見の改善に努めてきた。現在ではアフガニスタンとパキスタンの数多くの女性と子どもたちが教育を受けられるようになり、近年では女子大学の設立にも至っている。

第3回 鮮鶴平和賞 授賞式



日時
2019年2月9日

場所
大韓民国ソウル、ロッテホテルワールド クリスタルボールルーム

第3回 鮮鶴平和賞 選定経過

第3回授賞方針

鮮鶴平和賞は、人類の未来の平和に向けた第3回授賞方針として「アフリカの人権と開発」に注目しました。現在の人類は、止まることなく深刻化するグローバルな不平等問題に直面しています。21世紀の地球が平和と共生・共栄の時代を迎えるためには、地球村で最も取り残されてきたアフリカと共に歩む必要があります。アフリカが被ってきた人権抑圧と開発の問題は、全人類の良心に刻まれた傷であり、21世紀を生きる世界の人々が共に解決すべき課題です。鮮鶴平和賞の設立者は特に、宗教・国家・人種を超えた人類愛を世界平和の解決策として強調し、早くから「神の下、全人類は一つの家族」という平和ビジョンを掲げて平和運動を展開してきました。私たち人類は、豊かな人権感覚と英知をもって、アフリカの変化を後押ししていく必要があります。

候補者受付

鮮鶴平和賞委員会は、世界各国の著名人約1,000名で構成される推薦委員から、2018年2月から6月にかけて候補者の推薦を受け付けました。その結果、40か国111件の候補者が寄せられました。

候補者審査

鮮鶴平和賞委員会は数回にわたる審査会議を通じて、推薦された各候補者の活動内容及び功績事項を検討し、評価指標による客観的な審査過程を経ました。

受賞者の選定及び発表

鮮鶴平和賞委員会は最終審査会議で絞り込まれた候補者の中から、女性器切除撲滅を訴える人権活動家ワリス・ディリーと、アフリカのグッドガバナンス及び農業革新を主導するアキンウミ・アデシナ博士を、第3回鮮鶴平和賞の最終受賞者として選定しました。その後2018年11月22日、南アフリカ・ケープタウンにて第3回受賞者選定発表記者会見を行い、世界に正式発表しました。

アキンウミ・アヨデジ・アデシナ



農業経済学者、アフリカ開発銀行総裁

1960年2月6日 ナイジェリア・イバダン生まれ
米国パデュー大学 農業経済学博士

主な経歴

- 1988年 ロックフェラー財団 農業主任研究員
- 1990～1995年 アフリカ稲開発協会 主任エコノミスト及びコーディネーター
- 1999～2003年 ロックフェラー財団 南部アフリカ代表
- 2003～2008年 ロックフェラー財団 食料安全保障担当副局長
- 2008～2011年 アフリカ緑の革命のための同盟 副代表
- 2008～2010年 アフリカ農業経済学者協会会長
- 2011～2015年 ナイジェリア農業農村開発大臣
- 2015～2025年 アフリカ開発銀行総裁

農業革新とグッドガバナンスでアフリカの発展を促進

アフリカ農業の革新を主導し、アフリカの食料安全保障を改善

アキンウミ・アデシナ（Akinwumi Ayodeji Adesina）博士は、アフリカが21世紀に慢性的な貧困を克服し成長を遂げるには農業の革新が不可欠であるという信念のもと、30年にわたりアフリカ農業の革新を主導し、大陸全域の数億人の食料安全保障を改善してきた。アデシナ博士は「農業はアフリカ各国の経済多角化を実現し、雇用を創出し、食料安全保障の問題を解決すると同時に、アフリカが世界で優位性を確保できる最適な分野である」と訴え、農業に関する重要な政策を主導してきた。アデシナ博士は1990年から西アフリカ稲開発協会（WARDA）で主任エコノミストとして活動し、優良な種子と農法をアフリカの隅々まで届ける「アグロディーラー・イニシアチブ（The agro-dealers initiative）」モデルを考案し、アフリカ全土に広めた。このプログラムは、村の商店主が農民に改良種子を販売し、肥料や先進的な農法を伝えることを支援するもので、各国政府やNGOと積極的に協力し、農業生産量を大きく増加させた。また2015年、アデシナ博士は「最大のインフラ整備とは道路や鉄道、港湾ではなく、栄養補給による頭脳の成長である」と強調し、ビル・ゲイツ（Bill Gates）、ガーナ前大統領ジョン・クフォー、ナイジェリア最大の富豪アリコ・ダンゴテ（Aliko Dangote）ら世界の指導者たちと共に「栄養のためのアフリカ指導者イニシアチブ」を設立し、農業を通じた栄養失調の解決にも力を注いでいる。

グッドガバナンスでアフリカ大陸の経済発展を促進

アキンウミ・アデシナ博士は卓越した政治的リーダーシップを発揮し、ロックフェラー財団の食料安全保障担当副局長、アフリカ緑の革命のための同盟（AGRA）副代表、ナイジェリア農林大臣、アフリカ開発銀行総裁を歴任しながら、生涯にわたりアフリカの開発を主導してきた。アデシナ博士は、・コメ増産技術の導入、・農民が自らの規模に見合った技術にアクセスできるようにする政策の策定・実行、・小規模農家への融資保証、・官民の農業投資拡大、・肥料産業における腐敗の撲滅などを通じ、「農業」を軸にアフリカの包括的な経済発展を牽引してきた。2015年にアフリカ開発銀行総裁に就任して以降は、「電力等インフラの拡充」「食料供給」「産業化」「域内統合」「生活の質の向上」という5つの重点目標を掲げ、アフリカ大陸の成長を牽引している。これまでに440万人が電力にアクセスできるようになり、850万人が農業分野で、1,400万人が交通分野で恩恵を受けた。同氏は特に、アフリカが「貧困の大陸」から「機会の大陸」へと生まれ変わるためには、国際社会のアフリカへの向き合い方を「援助」から「投資」へと転換すべきだという洞察のもと、インフラ整備と人材育成に力を注いでいる。電力にアクセスできない6億4,500万人のために、10年以内の電力の普遍的アクセス実現を目標に掲げ、電力インフラへの集中投資を進めている。また、2050年にはアフリカの若年人口が約8億4千万人に達すると見込まれることを踏まえ、10年以内に2,500万人分の雇用創出を目標に、能動的な変化と成長を促進している。

ワリス・ディリー

女性器切除撲滅を訴える人権活動家、スーパーモデル

1965年 ソマリア生まれ

主な経歴

- 1987年 映画『007 リビング・デイル イツ』ボンドガール出演
- 1997年 著書『砂漠の花』出版(65か国語に翻訳、累計1,300万部)
- 1997～2003年 女性器切除撲滅のための国連人権親善大使
- 2002年 砂漠の花財団設立
- 2009年 映画『砂漠の花』公開



女性器切除問題を世界に問うた人権活動家

暴力的な女性器切除を世界的な人権問題として浮き彫りにし、撲滅を主導

ワリス・ディリー（Waris Dirie）は、女性器切除（FGM：Female Genital Mutilation）の撲滅に生涯を捧げた、最も重要な人権活動家である。FGMの暴力性を世界に初めて公にした人物として、この問題を国際社会の主要な人権課題に押し上げ、撲滅運動を主導した。ソマリアの遊牧民家庭に生まれ、5歳でFGMを受けた彼女は、スーパーモデルとして人気絶頂にあった1997年、声を上げられない何億人ものアフリカ女性を代表してFGM体験を告白。以後は人権活動家へ転身し、同年、国連初の「FGM撲滅人権親善大使」に任命され、撲滅キャンペーンを展開した。その勇気と努力により、2003年にアフリカ連合加盟15か国がFGM禁止を明記したマプト議定書を批准し、2012年には国連総会が全面禁止決議を全会一致で採択、2030年までの撲滅目標を掲げた。これは、危機にさらされていた何億人もの少女を救う画期的な転換点となった。

切除復元手術で心と体に深い傷を負った女性たちを癒やす

ワリス・ディリーは、残酷な性器切除で心身に深い傷を負った女性たちの治療とリハビリ支援にも率先して取り組んでいる。2013年には120人の医療スタッフとパリ、ベルリン、ストックホルム、アムステルダムに「砂漠の花センター」を設立し、性器再建手術、心理治療、職業訓練、教育プログラムなどを提供して、被害女性たちの新たな人生を支援してきた。さらに、一人でも多くの医師が復元手術を行えるよう市民社会団体や学術機関に教育資料を提供し、2014年には外科医・産婦人科医を養成する「砂漠の花外科センター」を設立。

教育と経済的自立による女性器切除撲滅の根本的解決策

アフリカの女性器切除は、宗教や文化に起因するというよりも、娘を高い婚資（花嫁代償）で嫁がせたいという親の経済的事情から行われるケースが多い。ワリス・ディリーは、女性の自立を助ける「基礎的な識字教育」と「職業教育」をFGM撲滅の根本的解決策として提示し、アフリカ各地で少女教育機関や女性職業訓練機関を運営している。

第4回 鮮鶴平和賞 授賞式



日時
2020年2月5日

場所
大韓民国京畿道、KINTEX第1展示場

第4回 鮮鶴平和賞 選定経過

設立者生誕100周年記念 2020特別授賞

2020年の授賞は特に、設立者である文鮮明総裁の生誕100周年を記念し、設立者の平和ビジョンである共生・共栄・共義に注目しました。人類の平和は、すべての国家が共に栄える平和共同体を築いてこそ達成されます。設立者は生涯にわたり、全人類が一つの家族として和合する世界平和共同体を志向し、そのためには利己主義と排他主義から脱し、宗教を超え、国家を超え、人種を超えようとする心と実践が必要であると説いてきました。しかし近年、世界各地で自国第一主義が拡大する一方、戦後の世界秩序の根幹であった協調的な国際主義は著しく弱まっています。平和とは、自分と相手との境界を取り払い、互いを尊重しながら協力と共栄の対象として向き合うときに初めて達成されるものです。グローバル時代を生きる私たちは、世界の運命を自らの運命と結びつけて考え、宗教、国境、人種を超えて連帯し、協力し合わなければなりません。

候補者受付

鮮鶴平和賞委員会は、世界各国の著名人約1,000名で構成される推薦委員から、2019年3月から6月にかけて候補者の推薦を受け付けました。その結果、46か国86件の候補者が寄せられました。

候補者審査

鮮鶴平和賞委員会は数回にわたる審査会議を通じて、推薦された各候補者の活動内容及び功績事項を検討し、評価指標による客観的な審査過程を経ました。

受賞者の選定及び発表

鮮鶴平和賞委員会は最終審査会議で絞り込まれた候補者の中から、セネガル大統領マッキー・サル、及び前ルーテル世界連盟議長ムニブ・A・ユナン主教を、第4回鮮鶴平和賞の最終受賞者として選定しました。また、設立者生誕100周年を記念し、前国連事務総長の潘基文（パン・ギムン）氏が設立者特別賞を受賞しました。その後2019年10月5日、日本・名古屋にて第4回受賞者選定発表記者会見を行い、世界に正式発表しました。

マッキー・サル

セネガル第4代大統領
1961年12月11日 セネガル生まれ
セネガル・シェイク・アンタ・ジョップ大学
地質工学及び地球物理学学士
フランス国立石油エンジン専門大学(ENSPM)卒業

主な経歴	
2002年	鉱業・エネルギー・水利・設備及び運輸大臣
2001～2003年	鉱物エネルギー大臣
2004～2007年	セネガル首相
2007～2008年	セネガル国会議長
2013年	アフリカ連合(AU)開発機構「NEPAD」国家・政府指導者オリエンテーション委員会委員長
2015～2016年	ECOWAS国家公務員団団長
2012～2024年	セネガル第4代大統領



アフリカのグッドガバナンスのモデル

大統領任期を7年から5年へ短縮するなど、大胆な改革でグッドガバナンスを実現

2012年4月にセネガル第4代大統領に就任したマッキー・サル大統領は、現行憲法下で7年と定められていた自身の任期を5年に短縮するなど、大胆な改革によってアフリカのグッドガバナンスを牽引している。長期政権が蔓延するアフリカにおいて大統領任期の短縮は極めて画期的な改革であり、セネガルでは2016年3月20日に「大統領任期及び国政に関する総合国民投票」が実施され、63%の得票で改革案が可決された。

サル大統領は、セネガル民主主義の近代化と安定化のため、法の支配の強化と公務統治構造の改善を目指す「15項目の改革措置」を発効させ、「国家汚職防止庁」及び「不正資産取得・不当利得回収のための国家委員会」を設立して腐敗撲滅の先頭に立っている。グッドガバナンスに向けた揺るぎない意志と実践は、西アフリカに成熟した民主主義を広げている。

交通インフラ拡充などで西アフリカの経済復興に貢献

マッキー・サル大統領は、民生の安定と経済復興を国家運営の最優先課題とし、2035年までに新興経済国入りすることを目標とした「セネガル躍進計画（Plan Senegal Emergent、第1期：2014～18年、第2期：2019～23年）」を推進し、経済成長率を6%台に安定させた。退職年金の引き上げ、農民への緊急補助金支給、教育に関する各種国家会議の開催、医療保険改革など、サル大統領が推進する多様な政策は、西アフリカにおける経済先進化のモデルとなっている。

また、サル大統領はアフリカ連合（AU）の開発機構「NEPAD」の国家・政府指導者オリエンテーション委員会の委員長として、道路、橋梁、高速道路、TER（地域急行鉄道）、航空会社エア・セネガル、セネガンビア大橋などの建設を進め、アフリカの交通インフラを大きく改善させた。

アフリカ大陸の和合を促進

マッキー・サル大統領は、大陸の紛争解決の手段として「対話」を重視し、「イスラムと平和国際会議」「アフリカサミット」「アフリカ躍進会議」などの国際会議を積極的に推進し、アフリカの指導者たちの和合を促している。2015年にダカールで開催された「イスラムと平和国際会議」には約500人の宗教指導者及び学者が参加し、平和に向けた建設的な議論が行われた。2018年にダカールで開催された「アフリカサミット」には、世界60か国以上の政界要人及び宗教指導者ら約1,200人が参加し、アフリカの平和な未来について議論した。

ムニブ・A・ ユーナン

宗教者による平和のための国際会議
名誉会長

1950年9月18日 エルサレム生まれ
フィンランド・ヤルヴェンパー・ルター神学校
フィンランド・ヘルシンキ大学 神学修士

主な経歴

1976～1979年 エルサレム・ヨルダン・パレスチナ福音ルーテル教会 (ELCJHL)牧師

1976～1997年 ヨルダン・パレスチナ福音ルーテル教会 キリスト教教育学校 教師及びコーディネーター

1990～1998年 ヨルダン・パレスチナ福音ルーテル教会 教会会議議長

1998～2004年 エルサレム国際キリスト教委員会(ICC)会長・理事

2004～2010年 中東福音教会協議会(FMEEC)議長

2010～2016年 中東教会協議会(MECC)会長

2010～2017年 ルーテル世界連盟(LWF)議長

2013年～現在 パレスチナ・イスラエル・エキュメニカル・アコンパニメント・プログラム(EAPPI)共同創設者兼議長



宗教和合の先駆者

40年以上にわたり中東地域でユダヤ教・キリスト教・イスラム教の和合を促進

ムニブ・ユーナン主教は、宗教の役割とは「性別、人種、民族、宗教、党派を超えてすべての人間に仕えることである」と世界に向けて訴え、「多様性の中の一致を実現するためには、宗教的過激主義を警戒し、聖書解釈の多様性や異なる信仰の伝統を受け入れる必要がある」という和合のメッセージを発信してきた。

1950年、エルサレムのパレスチナ難民家庭に生まれたユーナン主教は、生涯にわたりユダヤ教徒、キリスト教徒、イスラム教徒の間の対話を促進し、和解を導くことに尽力した。特に2004年から2010年まで中東福音教会協議会議長を務め、中東において異なる信仰を持つ宗教指導者たちの間に広範なネットワークを構築し、対話を深めることで中東の平和定着に貢献した。また、パレスチナとイスラエルのためのエキュメニカルな運動機関の創設メンバーとして、イスラエル・パレスチナ紛争の解決に尽力した。ユーナン主教は国際社会に向け、エルサレムはイスラム教、キリスト教、ユダヤ教の三宗教、及びイスラエル、パレスチナの二つの民族の共同の首都となるべきだと訴え、エルサレムの平和定着を主導した。

さらに同氏は、ルーテル教会の中心的教義文書であるアウクスブルク信仰告白（1530年）をアラビア語に初めて翻訳し、キリスト教とイスラム教の相互理解に貢献したほか、『平和のための証人』など宗教和合のメッセージを込めた著作を数多く執筆した。

カトリックとプロテスタントの対立和合に貢献

ユーナン主教は、根深いカトリックとプロテスタントの対立を克服するため、数十年にわたりカトリック教会との対話を続けてきた。その成果として2013年、ルーテル世界連盟とローマ教皇庁は「対立から交わりへ」という文書を共同で採択し、500年に及んだ和解への道を開いた。これはルターを「イエス・キリストの証人」、すなわち両者共通の遺産として受け入れ、教会一致とグローバル化の文脈の中で宗教改革を新たに理解することを促すものであり、カトリックとプロテスタントの分裂について神に赦しを請い、関係修復を誓う歴史的和解であった。

これを基盤に、ルーテル派とカトリックは2016年に宗教改革500周年を共に記念し、ユーナン主教とフランシスコ教皇は共に歩む道を宣言する声明に署名した。教皇がルーテル派の創立記念式典に参加したのは史上初めてのことであり、両者は「神学的な区分は偏見と対立を伴い、政治目的の道具に堕してしまう」とし、「宗教の名のもとに表された過去及び現在のあらゆる憎しみと暴力を拒否する」と表明し、世界に強い宗教和合のメッセージを発信した。

潘基文 (パン・ギムン)



- 第8代国連事務総長、
より良い未来のための潘基文財団
理事長
- 1944年6月13日 大韓民国生まれ
韓国・ソウル大学校外交学科学士
米国ハーバード大学ケネディスクール修士
- 主な経歴**
- 1970年 大韓国外務部入省
 - 2004～2006年 第33代大韓国外交通商部長官
 - 2007～2016年 第8代国連事務総長
 - 2017年～現在 国際オリンピック委員会 (IOC)倫理委員会委員長
 - 2018年～現在 ザ・エルダーズ副議長
 - 2018年～現在 潘基文世界市民センター共
同委員長
 - 2018年～現在 グローバル・グリーン・グ
ロース・インスティテュート
(GGGI)議長
 - 2019年～現在 より良い未来のための潘基
文財団理事長
 - 2019年～現在 微小粒子状物質(PM2.5)
対策のための国家機構委員長

持続可能な世界のためのリーダー

気候変動に対する地球規模の行動「パリ協定」を成功裏に導く

潘基文前国連事務総長は、気候変動に対する地球規模の行動である「パリ協定」の合意に向け、中心的な役割を果たした。2015年に締結されたパリ協定は、温室効果ガス排出の抑制に関して197か国が参加した史上最大級の気候協定であり、今世紀中に人為起源の温室効果ガス排出を実質ゼロにするという包括的かつ長期的な目標を核としている。潘前事務総長は、地球温暖化を抑制するため、貧富の差を問わずすべての国が参加するこの歴史的な気候協定の実現に向け、北極から南極まで世界中を駆け巡り、舞台裏で各国指導者の決断を促す目覚ましいリーダーシップを発揮した。

さらに潘前事務総長は、協定の発効に必要な55か国への集中的なロビー活動を行い、パリ協定は締結から1年もたたないうちに発効した。米国の著名な外交・安全保障専門誌『フォーリン・ポリシー』はこの功績を称え、潘前事務総長を「2016年世界の主要思想家100人」に選出した。

人類共通の繁栄に向けた未来のマスタープラン、 持続可能な開発目標(SDGs)を提示

潘基文前国連事務総長は2015年、第70回国連総会において、2030年までに人類共通の繁栄する未来を導くマスタープランである「持続可能な開発目標 (SDGs)」を提示し、全会一致で採択させた。地球規模の持続可能な発展のために17の分野で構成されるSDGsは、貧困撲滅、飢餓撲滅といった国連の伝統的課題に加え、21世紀に入りグローバルに広がる経済・社会の二極化、さまざまな社会的不平等の深刻化、地球環境の破壊といった各国共通の持続可能な発展への脅威要因を同時に緩和していくための、各国による包括的な行動とグローバルな協力のアジェンダである。潘前事務総長は、先進国と途上国という二分法的区分を超え、誰一人取り残されない世界を作るためのこの開発アジェンダの採択に向け、各国首脳の参加と共感を最大限に引き出した。

男女平等及び人権を大きく増進

潘基文前国連事務総長は、就任当初から人類の基本的人権の向上を重要課題とし、特に女性の地位向上と男女平等を奨励した。潘前事務総長は2010年、国連傘下の複数の女性関連委員会・組織を統合して「国連ウィメン (UN Women)」を発足させ、「女性に対する暴力撤廃のための団結キャンペーン (Unite to End Violence against Women Campaign)」「今こそレイプを止めよう (Stop Rape Now) イニシアチブ」「男性リーダーのネットワーク (Network of Men Leaders)」「紛争下の性的暴力に関する特別代表 (Special Representative on Sexual Violence in Conflict)」などを推進し、女性の人権を大きく向上させた。

第5回 鮮鶴平和賞 授賞式



日時
2022年2月12日

場所
大韓民国加平、HJグローバルアートセンター

第5回 鮮鶴平和賞 選定経過

第5回授賞方針

第5回鮮鶴平和賞は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受け、「グローバルな感染症対応：ワクチンの公平性」に注目しました。新型コロナウイルスの世界的流行により、世界各国の統治のあり方、グローバルな協力の枠組み、個人のコミュニケーションのあり方など、政治・経済・社会・文化全般にわたる世界の基本秩序が大きく変わりました。その結果、グローバルガバナンスは大きく後退し、ナショナリズムの台頭、世界経済への打撃、不平等の深刻化など、深刻な後遺症が世界に残されています。

平和な新たな日常の時代は、新型コロナによって後退したグローバルガバナンスを公正に再編する過程の中でこそ生まれます。人類愛に基づく「連帯と協力」は、グローバル・リセットの核心とならなければならず、新型コロナ後に現れうる次の疾病Xに備えるためにも不可欠です。これを受け、第5回鮮鶴平和賞は、世界的な感染症危機の最前線でワクチンを公共財として捉えたこの時代の偉人たちに注目しました。

候補者受付

鮮鶴平和賞委員会は、世界各国の著名人約1,000名で構成される推薦委員から、2021年5月から10月にかけて候補者の推薦を受け付けました。その結果、40か国177件の候補者が寄せられました。

候補者審査

鮮鶴平和賞委員会は数回にわたる審査会議を通じて、推薦された各候補者の活動内容及び功績事項を検討し、評価指標による客観的な審査過程を経ました。

受賞者の選定及び発表

鮮鶴平和賞委員会は最終審査会議で絞り込まれた候補者の中から、オックスフォード・アストラゼネカワクチンの開発者サラ・ギルバート博士、及び新型コロナの最前線で公平なワクチン分配を主導したGaviワクチンアライアンスを、第5回鮮鶴平和賞の最終受賞者として選定しました。また、「2022設立者特別功労賞」の受賞者としてカンボジア王国フン・セン首相を選定しました。その後2022年2月7日、韓国・加平にて第5回受賞者選定発表記者会見を行い、世界に正式発表しました。

サラ・ギルバート



オックスフォード大学ジェンナー
研究所教授、ヴァクシテック社共
同創設者

1962年4月 英国生まれ
英国イーストアングリア大学 微生物学学士
ハル大学 生化学博士
イーストアングリア大学 名誉理学博士

主な経歴

- 1986～1987年 醸造業界研究財団 研究員
- 1987～1989年 レスター大学「レスター・バ
イオセンター」研究員
- 1989～1994年 デルタ・バイオテクノロジー社
研究員
- 1994～2010年 オックスフォード大学ナ
フィールド医学部 分子生物
学上級研究員
- 1999～2010年 オックスフォード大学 講師
- 2004～2010年 オックスフォード大学
ワクチン学教授
- 2006～2010年 オックスフォード大学ジェン
ナー研究所 リーダー
- 2007年 ウェルカム・トラストによる
インフルエンザワクチン開発
プロジェクトへの助成
ー ヒト・動物用ワクチン開発
に関する戦略的支援 ー
- 2010～2021年 オックスフォード大学ナ
フィールド臨床医学部 ジェン
ナー研究所 教授
- 2013年～現在 エイドリアン・ヒル氏と共に
ヴァクシテック社を設立。感
染症及びがんに対するワクチ
ン・免疫療法を開発している

オックスフォード・アストラゼネカワ
クチンの開発者

ワクチンを人類の公共財として捉え、 低価格で25億回分以上を供給し、開発途上国の生命救護に多大な貢献

オックスフォード大学ワクチン学教授サラ・ギルバート博士は、新型コロナウイルスの世界的流行を人
類共通の課題と捉え、ワクチンを公共財として位置づけた。同氏はワクチン販売による利益を追求しな
い立場を貫き、低価格で世界的な流通・製造を担うことで合意したアストラゼネカ社と契約を締結し
た。保管・輸送が容易で低価格なオックスフォード・アストラゼネカワクチンは、2022年1月時点で世
界182か国に25億回分以上が供給され、特に医療体制が脆弱な開発途上国の人々を新型コロナから守る
上で決定的な役割を果たした。

未知の疾病Xから人類を守る、 新興ウイルスのワクチンを迅速に設計する「プラグ・アンド・プレ イ」方式を開発

過去25年間、中東呼吸器症候群（MERS）、クリミア・コンゴ出血熱、ニパウイルス、ラッサ熱など感
染症のワクチンを開発してきたギルバート博士は、感染症対策における「スピードの重要性」を痛感
し、迅速にワクチンを設計できる「プラグ・アンド・プレイ」方式を開発した。新型コロナウイルスの
世界的流行が起きる数年前から未知の疾病Xに備えてきたギルバート博士の科学的成果により、2020年
初頭に新型コロナウイルスが出現してからわずか2週間で新型コロナワクチンの設計を完了することが
できた。

Gavi ワクチンア ライアンス



主な沿革

新型コロナ対応のためのCOVAXファシリ
ティ・プロジェクトを開発

主な経歴

- 2000年1月 設立、スイス
- 2001年～現在 73か国で5種混合ワクチン（ジ
フテリア、破傷風、百日咳、B
型肝炎、Hib）を接種、約5億
人以上の子どもを保護
- 2001年～現在 14か国で5,500万回以上の黄熱
病予防接種を実施、100万人以
上の死亡を予防
- 2007年～現在 9,500万人以上の子どもに麻疹
の2回目接種を実施
- 2008年～現在 48か国の1億人の子どもにロタ
ウイルスワクチンを接種
- 2009年～現在 肺炎球菌結合型ワクチン
（PCV）を開発、1億8,300万
人の子どもに接種
- 2010年～現在 アフリカ向けに最適化された
髄膜炎菌ワクチンを開発、900
万人以上の子どもに接種
- 2013年～現在 麻疹・風疹予防活動で2億
7,500万人以上の子どもを保護
- 2018年～現在 世界初のエボラウイルスワク
チンを開発
- 2020年～現在 新型コロナ対応のためCOVAXファ
シリティ・プロジェクトを開発

新型コロナの最前線で公平な
ワクチン分配を主導

世界的なワクチン格差という課題に直面し、脆弱な国へのワクチン供 給に貢献

Gaviワクチンアライアンスは、富裕国による新型コロナワクチンの独占という不平等な状況に直面し、公平なワクチン供給に向けた国際的な連帯及び多国間協力を導いた。Gaviは2020年のパンデミック発生直後、新型コロナワクチンを共同購入し、低価格で開発途上国にも公平に分配する国際プロジェクト「COVAXファシリティ」を迅速に主導した。COVAXファシリティは、Gaviワクチンアライアンス（GAVI）、世界保健機関（WHO）、感染症流行対策イノベーション連合（CEPI）が中心となって運営するワクチンの共同購入・分配のための国際プロジェクトであり、2022年1月時点で144か国に10億回分のワクチンを供給した。現在、COVAXの供給量の約90%は全額拠出金によって低・中所得国に提供されており、ワクチン格差の解決に大きく貢献している。

世界の子ども8億人以上に予防接種、子どもの死亡率を半減させるこ とに貢献

世界73か国に拠点を置くGaviワクチンアライアンスは、脆弱な国の子どもたちのワクチンアクセスを高め、人類の健康増進を図る世界最大のワクチン国際協力メカニズムである。Gaviは世界中の数多くの政府、国際機関、財団、協会、NGO、企業とパートナーシップを構築し、幅広い予防接種推進活動を展開しており、2000年の設立以来、世界の子ども8億2,000万人以上の予防接種を支援し、1,400万人以上の死亡を防いだ。特に2000年に59%だったDPT（3種混合）予防接種率を20年間で81%にまで引き上げ、73の開発途上国における子どもの死亡率を半減させることに貢献した。Gaviの献身的な活動により、最貧国の人々が利用できるワクチンの種類は従来の5種類から17種類へと増加した（ジフテリア、破傷風、B型肝炎など5つの疾病を予防する5種混合ワクチン、ロタウイルス、肺炎球菌、コレラ、腸チフス、麻疹、風疹、ポリオワクチンなど）。

国連持続可能な開発目標（SDGs）14目標の達成に直接貢献

Gaviワクチンアライアンスは、国連の持続可能な開発目標（SDGs）17目標のうち14目標の達成に直接貢献するため、世界最貧国の子ども3億人と脆弱層11億人に予防接種を行い、2,200万人の将来の死亡を防ぐことに力を注いでいる。

フン・セン

カンボジア王国首相

1951年4月4日 カンボジア生まれ
カンボジア高等教育機関 政治学学士
ハノイ国立政治アカデミー 政治学博士
米国南カリフォルニア大学 名誉政治学博士
米国アイオワ州ウェスリアン大学 名誉法学博士
欧州連合アイルランド大学 名誉政治学博士
中華人民共和国広西大学 名誉文学博士

主な経歴

- 1977年 カンボジア大量虐殺政権解放運動リーダー
- 1978年 カンプチア救国民族統一戦線(UFNSK)創設メンバー
- 1981～1991年 外務大臣
- 1985～2023年 カンボジア首相
- 1993～1998年 カンボジア共同首相、最初の連立政権下で第二首相を歴任
- 1999年 フン・セン首相の主導の下、カンボジアが東南アジア諸国連合(ASEAN)の10番目の加盟国に
- 2015年～現在 カンボジア人民党(CPP)党首
- 2024年～現在 カンボジア上院議長



東南アジアの持続可能な発展を主導し、
新たな朝鮮半島平和プロセスを支援

東南アジアの持続可能な発展に向け卓越したリーダーシップを発揮

フン・セン首相は、天宙平和連合（UPF）をはじめとする様々な国際平和フォーラムや平和イニシアチブに積極的に参加することで平和のための国際協力を促進し、特に東南アジアの持続可能な発展に向けて卓越したリーダーシップを発揮してきた。カンボジアは2002年、2012年、2022年と東南アジア諸国連合（ASEAN）の議長国を務め、2021年にはアジア欧州会合（ASEM）の開催を主導し、アジアの平和と発展のための多国間協力を推進した。特にメコン諸国間の開発格差の縮小と、平和な東南アジア共同体の構築に向けて先頭に立っている。

「朝鮮半島平和サミット」の共同議長として、新たな朝鮮半島平和プロセスを支援

フン・セン首相は、韓鶴子総裁が新たな朝鮮半島平和プロセスとして提唱した「新統一韓国の平和体制」に呼応し、「朝鮮半島平和サミット」の共同議長を務め、朝鮮半島の平和統一に向けて尽力してきた。「朝鮮半島平和サミット」は、朝鮮半島の平和のため、南北朝鮮と同時に国交を結ぶ157か国の指導者・知識人が集い、2021年9月に発足した国際機構であり、フン・セン首相は世界の指導者たちと知恵を結集し、行き詰まった南北関係に突破口を開こうとリーダーシップを発揮してきた。「朝鮮半島平和サミット」は、生涯を朝鮮半島の平和と統一に捧げてきた文鮮明・韓鶴子総裁の意志を受け継ぐために設けられた国際会議であり、文鮮明・韓鶴子総裁は命を懸けて北朝鮮を訪問し、金日成主席と平和会談を行うなど、生涯を朝鮮半島の平和のために捧げてきた。

第6回 鮮鶴平和賞 授賞式



日時
2025年4月11日

場所
大韓民国ソウル、ロッテホテルワールド クリスタルボールルーム

第6回 鮮鶴平和賞 選定経過

第6回授賞方針 平和のためのイノベーション

第6回鮮鶴平和賞は「平和のためのイノベーション」というテーマのもと、創造的かつ持続可能な解決策によって地球規模の危機を乗り越えてきた指導者たちの挑戦と成果に光を当てます。気候変動、紛争・人道危機、経済的不平等、貧困の深刻化など、人類が直面する複合的な課題は、既存の枠組みを超えた創造的かつ包摂的な解決策を必要としています。変化のスピードと問題の複雑さを踏まえると、従来のアプローチだけではこうした課題を効果的に解決することが難しいためです。

イノベーションとは単なる技術の進歩にとどまらず、「発想の転換」「政策の進化」「協力構造の革新」を含みます。こうした革新的なアプローチは、地球規模の危機への効果的な対応に加え、持続可能な平和の基盤を築く上で不可欠です。

持続可能な平和を実現するためには、現実の問題を解決するための革新的な行動、国家や境界を超えた協力、そして世界市民に変化のインスピレーションを与える指導者たちが必要です。これを受け、第6回鮮鶴平和賞は、地球規模の危機の中にあっても創造的かつ持続可能な解決策を示し、限界を超えた成果を成し遂げた指導者たちに注目しました。

候補者受付

2024年3月から9月にかけて、世界各国の著名人約1,000名で構成される推薦委員及び平和大使からの推薦により候補者を受け付けた結果、105か国から合計1,132件が寄せられました。

候補者審査

鮮鶴平和賞委員会は複数回の審査会議を経て、推薦された各候補者の活動と功績を検討し、評価指標に基づく客観的な審査を行いました。

受賞者の選定及び発表

鮮鶴平和賞委員会は最終審査会議を通じて絞り込まれた候補者の中から、パトリック・アワ、ヒュー・エヴァンス、ワンジラ・マータイを第6回鮮鶴平和賞受賞者として選定しました。2025年1月15日、ソウル・韓国プレスセンターで行われた受賞者選定発表記者会見を通じて、世界に正式発表しました。

ワンジラ・ マータイ

世界資源研究所
アフリカ及びグローバルパートナ
シップ統括責任者

1971年 ケニア生まれ
米国エモリー大学 公衆衛生学修士
米国スミス・カレッジ 生物学学士

主な経歴

- 2002年～現在 グリーンベルト運動
議長及び理事
- 2013年～現在 再生可能エネルギー分野の女性
起業家プログラム(wPOWER)
プログラムリーダー
- 2015年～現在 ワンガリ・マータイ財団
共同創設者
- 2019年～現在 世界資源研究所 アフリカ及びグロー
バルパートナーシップ統括責任者
- 2022年～現在 ベゾス・アース・ファンド
アフリカ首席アドバイザー



アフリカの生態系再生を牽引する リーダー

グリーンベルト運動を主導し、アフリカに5,100万本の木を植える

ワンジラ・マータイは、アフリカの生態系再生と気候レジリエンス強化に尽力してきた環境活動家である。彼女は1977年に母であるワンガリ・マータイが設立したグリーンベルト運動（Green Belt Movement, GBM）を引き継ぎ、アフリカ全土で5,100万本以上の植樹を行う中心的な役割を果たした。グリーンベルト運動は単なる植樹活動にとどまらず、森林再生、生物多様性の保護、環境教育を軸に地域社会を変革する草の根運動へと発展した。この運動は植樹を通じて地域社会の持続可能な環境づくりに貢献しただけでなく、女性に経済的自立とリーダーシップの機会を提供した。2023年時点で、グリーンベルト運動はケニアを越えてアフリカの複数の国々に広がり、約5,100万本の植樹を実現。水資源の保護、土壌肥沃度の改善、生物多様性の向上など、実質的な成果をもたらした。

女性起業家による再生可能エネルギー投資を牽引

ワンジラ・マータイは、アフリカの女性起業家が再生可能エネルギー分野で主導的な役割を果たせるよう支援し、持続可能なエネルギーへのアクセス拡大に貢献してきた。彼女は「再生可能エネルギー分野の女性起業家プログラム（wPOWER）」などのプログラムを通じ、約5,000人の女性に再生可能エネルギー分野での起業教育を提供し、経済的自立を後押ししてきた。このプログラムにより、多くの女性が農村地域で太陽光発電システムを設置したり、再生可能エネルギーを活用した事業を営んだりするようになり、地域社会のエネルギーアクセス向上と化石燃料依存の低減に大きく貢献した。また、ワンジラ・マータイはベゾス・アース・ファンド（Bezos Earth Fund）のアフリカ担当アドバイザーとしても活動し、再生可能エネルギープロジェクトに必要な資金調達を主導することで、アフリカの持続可能なエネルギー転換を加速させている。

アフリカの1億ヘクタールの土地再生を目標に

ワンジラ・マータイは2019年から世界資源研究所（WRI）のアフリカ及びグローバルパートナーシップ統括責任者として活動し、「アフリカ森林景観再生イニシアチブ（AFR100）」を主導している。このプロジェクトは2030年までに荒廃した土地1億ヘクタールを再生することを目標に、アフリカ31か国と協力して進められている。彼女は地域社会の参加を重視し、小規模農家と協力しながら持続可能な農業と森林再生を推進している。2024年時点で、このプロジェクトを通じて3,000万ヘクタール以上の土地が再生され、水資源の保護、農業生産性の向上、生物多様性の保全に重要な貢献を果たしている。さらに、このプロジェクトは地域住民に経済的機会を提供し、雇用を創出するとともに、生活の質の向上にも大きく寄与している。

ヒュー・エヴァンス

グローバル・シチズン共同創設者

1983年 オーストラリア生まれ
モナシュ大学 法学及び政治学学士
英国ケンブリッジ大学 国際関係学修士
ユタ州立大学 名誉博士

主な経歴

2003年 オークツリー財団(Oaktree Foundation)共同創設者
2012年 世界経済フォーラム「ヤング・グローバル・リーダー」選出
2012年 フォーブス誌「30 Under 30」選出
2014年 Fast Company誌「最もクリエイティブな人物100人」選出
2008年～現在 グローバル・シチズン(Global Citizen)共同創設者兼CEO



青年世代を牽引する グローバル・シチズン・イノベーター

436億ドルを動員し、世界の貧困撲滅に貢献

ヒュー・エヴァンスは2008年に「グローバル・シチズン（Global Citizen）」を設立し、極度の貧困撲滅に向けた世界的な取り組みを主導してきた。グローバル・シチズンは世界銀行や主要なグローバル企業などから436億ドル以上の資金的コミットメントを引き出し、13億人以上の生活改善に貢献した。これにより、医療サービスへのアクセス拡大、教育機会の提供、食料安全保障の強化、気候変動対応など、さまざまな分野で実質的な変化をもたらした。特に2018年、南アフリカ・ヨハネスブルグで開催された「マンデラ100キャンペーン」では74億ドルの資金を確保し、1億2,200万人のアフリカの人々に医療と教育の恩恵をもたらした。新型コロナウイルスの世界的流行の際には「Global Goal: Unite for Our Future」キャンペーンを通じて70億ドルの基金を動員し、ワクチンの公平性と治療薬供給を通じた世界的な保健危機への対応に重要な貢献をした。

世界の市民の力を結集し、グローバルな政策変化を主導

ヒュー・エヴァンスはグローバル・シチズンを通じ、世界中の市民の力を一つに結集して地球規模の課題解決にあたる革新的なデジタルプラットフォームを構築した。現在約1,200万人の会員を擁するこのプラットフォームは、貧困、不平等、気候変動といった地球規模の課題解決のために4,290万件の行動を組織し、これを通じて30件のグローバルな政策変化を実現させた。代表的な例として、グローバル・シチズンは2018年、「教育のためのグローバル・パートナーシップ（GPE）」キャンペーンを通じて23億ドルの資金を集め、7億人以上の子どもに教育機会を提供した。当時約26万人のグローバル・シチズン会員が、オンライン署名、SNSキャンペーン、メールなど約2,500万件に上る行動を起こし、国際機関や各国指導者に継続的な働きかけを行うことで変化を引き出した。また、グローバル・シチズンはG7サミット、G20サミット、国連総会といった国際的な舞台で、各国指導者に対し持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた財政的・政策的コミットメントを求めてきた。その結果、2021年のG7サミットでは新型コロナワクチンの公平性のために15億ドルが調達され、1億人以上のワクチン接種支援に貢献した。

文化と集団行動の融合：音楽が生み出した世界的な変化

ヒュー・エヴァンスは音楽と市民行動を組み合わせ、大規模な市民参加を引き出す独創的なモデルを提示した。2012年に始まった「グローバル・シチズン・フェスティバル（Global Citizen Festival）」には、ビヨンセ、リアーナ、BTSなど世界的アーティストが参加し、観客が単なる参加にとどまらず、署名活動やメッセージキャンペーンといった実際の行動を通じて地球規模の課題解決に加わる場として定着した。特にパンデミック時には、オンラインフェスティバル「One World: Together at Home」を企画し、世界的な連帯を強化した。この催しは175か国で放映され、レディー・ガガのキュレーションのもと、エルトン・ジョン、スティービー・ワンダーら伝説的アーティストとともに1億2,790万ドルの基金を集めた。この資金は、最前線で働く医療従事者の支援や新型コロナ対応に充てられた。音楽という強力な媒体を活用した彼の革新的なアプローチは、市民行動の裾野を広げ、大規模な世界的課題の解決に向けた国際的支援の形成において重要な役割を果たした。

パトリック・アワ

アシェシ大学創設者兼学長

1965年 ガーナ生まれ
スワースモア大学 工学及び経済学学士
米国カリフォルニア大学バークレー校ハース・スクール・オブ・ビジネス 経営学修士
スワースモア大学 名誉博士
ウォータールー大学、バブソン・カレッジ、コネチカット・カレッジ、トロント大学 名誉博士

主な経歴

1989～1997年 マイクロソフト社 ソフトウェアエンジニア、プログラムマネージャー
2007年 世界経済フォーラム「ヤング・グローバル・リーダー」選出
2013年 国際ロータリー財団 ポール・ハリス・フェロー選出
2016年 クォーツ・アフリカ「イノベーター」選出
2002年～現在 アシェシ大学 創設者兼学長



アフリカの未来を切り拓く教育イノベーター

アフリカの未来を担う最先端IT人材を育成

パトリック・アワは2002年にガーナにアシェシ大学を設立し、アフリカの教育に革新的な変化をもたらした。同氏はSTEM（科学、技術、工学、数学）と実践重視の教育方式を導入し、学生が創造的に考え、問題を解決し、実務能力を培えるよう支援してきた。開校当初は30人だったアシェシ大学は、現在では31か国から集まった約1,500人の学生が在籍し、倫理的リーダーシップと最先端のIT技術を備えた数千人の卒業生を輩出する、アフリカの未来人材を育む拠点となっている。

アシェシ大学の卒業生の90%は卒業後6か月以内に質の高い職を得るか起業に成功し、アフリカ経済に肯定的な変化をもたらしている。特に2019年に設立された「アシェシ・ベンチャー・インキュベーター」は、学生が革新的なアイデアを実現できるよう支援し、これまでに30以上のスタートアップを誕生させた。これらの企業はこれまでに150万ドル以上の収益を生み出し、アフリカ経済に活力を吹き込んでいる。こうした成果を背景に、アシェシ大学は設立からわずか20年でガーナ第1位、アフリカ第9位、世界トップ400位の大学へと成長し（2020年タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）インパクトランキングによる）、アフリカの高等教育における先駆的な役割を果たしている。

教育アクセスと男女平等の促進

パトリック・アワは、アフリカの若者が経済的な制約を受けずに質の高い教育を受けられるよう、教育のアクセス拡大に注力してきた。現在、アシェシ大学の学生の55%が奨学金を受給しており、経済的困難による学業中断を防ぐ役割を果たしている。

特に、女性の教育機会拡大に向けた取り組みは目覚ましい成果を上げている。開校当初はわずか25%だった女子学生の割合は現在50%にまで増加し、アシェシ大学はSTEM分野での女性の活躍を奨励するため、さまざまな奨学金及びメンタリングプログラムを運営している。その結果、女子学生はコンピューターサイエンス、工学、経営学など多様な分野で頭角を現しており、アシェシ大学出身のレジナ・ホヌはBBCが選ぶ「最も影響力のある女性100人」に選ばれ、アフリカの女性たちにコンピューターサイエンスを広める活動を続けている。

アフリカの慢性的な腐敗問題を解決する倫理的リーダーを育成

パトリック・アワは、アフリカ社会に蔓延する腐敗問題の解決に向け、倫理的リーダーシップを備えた次世代リーダーの育成に力を注いできた。同氏は倫理、協働、起業家精神を核とした4年間のリーダーシッププログラムを開発し、学生が倫理的責任感を培い、社会的課題に対応できる力を身につけられるよう支援してきた。

アシェシ大学はアフリカで初めて「名誉規定（Honor Code）」を導入し、学生が自律的に試験を受け、不正行為を相互に監視・報告する仕組みを運営することで、倫理的な文化を広めてきた。こうした教育方式は、学生が個人的な成功にとどまらず、地域社会や国家の発展に貢献できる倫理的リーダーへと成長することを後押ししている。

グッドラック・
エベレ・
アジキウェ・
ジョナサン



前ナイジェリア大統領

1957年11月20日 ナイジェリア生まれ
ナイジェリア・ポートハーコート大学
動物学(水生生態学)修士
ナイジェリア・ポートハーコート大学
動物学(魚類生物学)博士

主な経歴

2005～2007年 バイエルサ州知事
2007～2010年 ナイジェリア副大統領
2010～2015年 ナイジェリア大統領
2019年～現在 国際平和サミット評議会(ISCP)
アフリカ大陸議長
2020年～現在 コフィー・アナン財団「選挙とデジタル
時代の民主主義に関する委員会」委員
2020年～現在 西アフリカ諸国経済共同体
(ECOWAS)マリ調停特使
2021年～現在 西アフリカ諸国経済共同体
(ECOWAS)賢人会議長

民主主義で世界平和を導くリーダー

「平和とは単なる外交合意ではなく、絶え間ない対話と実践によって成し遂げられるものです。
私たちは団結しなければならず、世界の指導者たちが一堂に会し、平和のための実質的な行動を
取らなければなりません。」

ーグッドラック・ジョナサン 前ナイジェリア大統領、ISCP会議にて

グッドラック・ジョナサン前大統領は2010年から2015年までナイジェリアを率い、在任中、民主的手
続きを尊重し平和的な政権移行を実現した指導者として評価されている。退任後もアフリカ連合
(AU) 及び国際平和サミット評議会 (ISCP, International Summit Council for Peace) の調停者と
して活動し、西アフリカ及びサヘル地域における民主主義と平和構築に力を注いでいる。

平和活動

西アフリカ地域の民主的ガバナンスの強化

ガーナ、マリ、ギニアなどで政治的不安定の問題解決のための調停者として活動し、対話の促進及び
政治的対立の解決に貢献した。

平和的な選挙監視及び過激主義への対応

ナイジェリア、ケニア、シエラレオネなどで民主的な選挙手続きを監督し、公正性を維持すること
で、安定した政治体制の構築に貢献した。同氏はボコ・ハラムのような過激主義組織の脅威に対応す
るため国際協力を強化し、地域の安全保障及び平和維持に努めている。

平和促進への貢献

西アフリカにおける平和協力にとどまらず、アフリカひいては世界の平和ガバナンスの構築にも貢献
してきた。同氏は国際平和サミット評議会 (ISCP, International Summit Council for Peace) の中
心的指導者として、政治的リーダーシップを通じた平和構築を実践している。その活動は韓鶴子総裁
の平和ビジョンと通じるものであり、既存の外交体系を超え、世界の指導者たちが共に行動する新た
なグローバル平和ガバナンスの構築に貢献している。

サミュエル・ラデベ



神の啓示の教会 預言者

1977年 南アフリカ生まれ
米国ニューバーク神学大学院 哲学博士

主な経歴

2009年～現在 啓示の霊の家(TRSH)創設者兼
上級霊的指導者

2009年～現在 Trillion Cart Investments(TCI)
創設者

2013年～現在 Dr. S.B. Radebe財団 創設者

2018年 南アフリカ共和国における超宗教
平和祝福式典 コーディネーター

2021年～現在 アマフルビ王国 霊的顧問

2023年 アフリカ宗教・信教の自由フォーラム
(AFRSL)アフリカコーディネーター

2023年～現在 平和と発展のための宗教間協会
アフリカ支部会長

宗教を超えて霊的
和合を成し遂げる
リーダー

「現在、家庭の崩壊、霊性の喪失など、世界全体が霊的な課題に直面しています。このよ
うな状況の中で、聖職者である私たちの使命は、超宗教的に和合を成し遂げ、霊的な刷新
を通じて神の下に人類が一つの家族となることであり、それこそがWCLCの使命です。」

ーサミュエル・ラデベ 世界宗教指導者協議会（WCLC）創立大会にて

サミュエル・ラデベ預言者（Prophet Samuel Radebe）は、アフリカの伝統的な霊性とキリスト教
信仰を調和させ、信仰の根本的な霊性の回復が平和のための手段となり得ることを強調してきた。同
氏は世界宗教指導者協議会（WCLC）アフリカ地域代表の一人として、宗教指導者たちが共通の価値
を見出し協力できるよう支援する役割を果たしている。

平和活動

霊性運動を通じたアフリカの宗教和合の強化

キリスト教及び伝統的な霊性指導者との協力を通じ、信仰共同体間の対立を解決し、協力を促進する
役割を果たしている。

青年リーダーシップ及び平和教育の拡大

若い世代が純粋な霊性の価値に基づいて平和を実践できるよう教育プログラムを運営し、未来の指導
者育成に貢献している。

国際的な宗教連帯の構築

韓鶴子総裁のWCLCビジョンと連携し、アフリカ地域の宗教指導者たちと共に国際平和運動に積極的
に参加している。サミュエル・ラデベ預言者は、信仰を基盤に宗教間の連帯と平和構築を実現し、ア
フリカを超えて世界全体で、信仰を通じた和合と協力の道を共に歩んでいる。

鮮鶴平和賞 授賞式

THE SUNHAK PEACE PRIZE AWARD CEREMONIES

2015-2025, 大韓民国



鮮鶴平和賞 授賞式

THE SUNHAK PEACE PRIZE AWARD CEREMONIES

PEACE

2015-2025, 大韓民国



鮮鶴平和賞 沿革

- 2013.2.20
韓鶴子総裁、鮮鶴平和賞の制定を発議
- 2014.8.11
鮮鶴平和賞委員会発足式
- 2015.6.8
第1回鮮鶴平和賞受賞者発表
- 2015.8.28
第1回鮮鶴平和賞授賞式
(受賞者：アノテ・トン、モダドッグ・グブタ)
- 2015.11.23~25
インド・ネパール 鮮鶴平和賞イニシアチブ
- 2016.11.29
第2回鮮鶴平和賞受賞者発表
- 2017.2.3
第2回鮮鶴平和賞授賞式
(受賞者：ジノ・ストラーダ、サキナ・ヤクービ)
- 2018.11.22
第3回鮮鶴平和賞受賞者発表
- 2019.2.9
第3回鮮鶴平和賞授賞式
(受賞者：アキンウミ・アデシナ、ワリス・ディリー)
- 2019.10.5
第4回鮮鶴平和賞受賞者発表

- 2020.2.5
第4回鮮鶴平和賞授賞式
(受賞者：マッキー・サル、ムニブ・A・ユーン／
設立者特別賞受賞者：潘基文)
- 2022.2.7
第5回鮮鶴平和賞受賞者発表
- 2022.2.12
第5回鮮鶴平和賞授賞式
(受賞者：サラ・ギルバート、Gaviワクチンアライアンス／
設立者特別賞受賞者：フン・セン)
- 2025.1.15
第6回鮮鶴平和賞受賞者発表
- 2025.4.11
第6回鮮鶴平和賞授賞式
(受賞者：パトリック・アフ、ヒュー・エヴァンス、ワンジラ・マータイ／
設立者特別賞受賞者：グッドラック・ジョナサン、サミュエル・ラデベ)

候補者の推薦

候補者 資格基準	- 鮮鶴平和賞の平和の旗印を具現化した活動に顕著な貢献をした個人または団体 - 複数の国家、人種、宗教、理念にわたり、平和の理想に肯定的な影響を与えた個人または団体 - 個人の場合、推薦時に存命であること
提出書類	候補者推薦書(所定様式)1部 ＊ダウンロード： http://sunhakpeaceprize.org 業績に関する証明資料 ＊提出するすべての資料は英語で作成してください。
推薦書の受付	鮮鶴平和賞事務局 (04174)大韓民国ソウル特別市麻浦区麻浦大路34ドウォンビル8階 Email: sunhakpeaceprize@gmail.com Website: http://sunhakpeaceprize.org Tel: +82-2-3278-5158 Fax: +82-2-3278-5198

他のプロジェクト紹介

1. グローバル市民教育:Learn & Act

教育は世界平和の実現を早める上で非常に重要です。私たちは、より多くの生徒たちが地球規模の出来事に関心を持ち、真の「アハ体験（a genuine aha-moment）」を得られるよう取り組んでいます。

「Learn & Act」は、未来世代が持続可能な開発目標について学び、創造的な問題解決の方法を考えられるよう設計されたグローバル市民教育プログラムです。「Learn & Act」は、中学生以上を対象に世界の平和に関する諸課題を学ぶために設計された60分間の教育プログラムであり、内容は国連及びその他の国際機関の最新の統計情報に基づいています。教材は7か国語（韓国語、中国語、日本語、英語、フランス語、スペイン語、アラビア語）で提供されています。

アクセス先：http://sunhakpeaceprize.org/en/learn/learn_act.php

2. 平和モーショングラフィック・コンテスト

「平和モーショングラフィック・コンテスト」は、現代の重要な世界的平和課題を魅力的なモーショングラフィックで表現し、世界中の人々と共に考え、解決策を模索することを目的として2020年に始まりました。世界中の人々がオンラインでつながり、対話し、共に成長していくこの時代において、モーショングラフィックというコンテンツが世界をより良くする上で重要な役割を果たせると私たちは考えています。

テーマ：

2020年「鮮鶴平和賞の平和の旗印：人権尊重」

2021年「感染症の予防と撲滅のためのグローバルな連帯と協力」

2022年「持続可能な暮らし」

3. グローバルインターンシップ

鮮鶴平和賞財団事務局では、グローバル・ピース・リーダーを育成するための青年インターン制度を運営しています。日頃から世界の平和課題に関心があり、国際的な視野を養いながら、多様なNGO運営の実務経験を積みたいと考える世界中の青年たちの応募をお待ちしています。



未来世代のための平和賞

親が無条件の愛で子どもに責任を持つように、
現世代もまた、これから訪れる世代の平和のために道徳的責任を
分かち合わなければなりません。